



田中 京子 議員

市民が医療を守るとき！

問 総合病院の運営について、市民に愛され信頼される病院作りの取り組みを伺います。

答 総合病院では、市民が安心して生活ができるよう、救急体制の充実と市内で不足する診療科目を確保し、職員の接遇向上を図り、あたたかみのある病院づくりを目指しております。今後も市民に寄り添いながら、相双地区の基幹病院として役割を十分認識し、医療サービスの提供に努める考えであります。

問 市民が親しみやすい病院の環境を整えるため、市民参加や協働による病院づくりについて伺います。

答 来院者の誘導などを行うロビーボランティアや、敷地内の緑化を維持するグリーンボランティアとして、

市民の参加や協働による親しみやすい病院環境の整備に努めております。今後、更なる市民参加協働に向けての院内音楽演奏などの癒しのイベント開催や、図書コーナーの設置なども実施に向け検討しております。

問 小高病院での取り組みについて伺います。

答 小高病院では、平成26年に再開して以来、待合室などに花や写真を飾り、患者さんの心を和ませる雰囲気づくりに努め、また職員は挨拶の徹底と声かけなど、市民に親しみ信頼される病院づくりに努めてきました。今後も地域住民の皆様と共に、病院づくりについて協議して参ります。



再開された小高病院

質問を終えて

医師を育てるのは、患者と市民。だとすると市民との協働は、是非必要ですね。

その他の質問

① 市内の施設めぐりの再開は

問 小高病院の今後について伺う。

答 地域内の居住人口減少等により、入院機能を持つ病院としての経営が困難なことから、昨年度に策定した「南相馬市立病院改革プラン」に沿って無床診療所として再生し、総合病院と連携しながら対応していく考えである。

問 収支シミュレーションでは、有床診療所19床の場合、赤字額が約4千500万円（総合病院は約10倍以上の赤字見込み）。小高区民の多くは、無床診療所とする計画を知らない。まして、特に高齢の方は不安が大きいだろうし、原発事故により東電から約14億円の賠償金が入っているのだから、有効活用すれば何とか有床診療所と



今村 裕 議員

小高病院がなくなる!?

して再開できるのではないか。

答 小高病院に係る賠償金は、総合病院会計から補填して頂いた赤字分の返済に充てている。小高病院を造れと言われても造れる状況にないが、診療から最期まで看取れる体制や療養ベッドを含めた体制についても、今検討しているところである。

質問を終えて

小高病院を失くすのは簡単だが、理解を得るのは難しい。可能性への挑戦を強く望む。

その他の質問

① 完全な原子力賠償を求めることについて
② 国際交流事業の拡充策について
③ 通年型観光交流施設の充実策について



無床診療所化される(?)小高病院



但野 謙介 議員

将来を見据えた 住宅政策を

問 人口減少に伴い、全国的に空き家の増加が社会問題になっていく。15年後、空き家率は全国で30%にのぼるという予測もある。

答 空き家として利用されないで放置されるのが一番市にとつても問題。現在、市で展開している空き地・空き家バンクをもっと有効的に使えるようにする

とともに、空き家等の見通しを調査し、状況の推移をみながら検証していく。

問 国は、空き家等既存の住宅ストックの利活用に軸足を移しはじめる。空き地・空き家バンクに登録をしている方は、既に売却の意思を固めていたり、貸すということを決めた方。今、重要なのは、それ以外の利活用されていない住宅への対応



大町西・東団地

である。このまま長期的に空き家が續くと、いずれは朽ち果ててしまいう住宅がたくさん出てくる。税を投じて管理や対策が必要な状況になる。早い段階で、住宅の利活用策が必要ではないか。リノベーション（改築）の支援などの考えを伺う。

答 それぞれ課題を抱えて、空き家となっている。市は空き家対策を今年度から始める。調査を踏まえ今後の政策を検討する。

小高区は空き住宅については、個別に問い合わせ、話し合いをしている。今後、対応策を政策として展開できるように努めていく。

質問を終えて

住宅再建が進む中、今後は長期的な視点から支援策を講じる必要がある。

その他の質問

- 1 南相馬鹿島SAの活用策について
- 2 広域観光の今後の見通しについて
- 3 データに基づいた観光施策の展開を

平成28年度政務活動費精算一覧を公表します

(単位：円)

会派名	友和会	改革クラブ	尚友会	日本共産党議員団	無会派	無会派	無会派	無会派	無会派(公明党東相馬市議員団)	総合計
会派構成	平田 武 今村 裕 山田雅彦 細田 廣 田中一正 中川庄一 鈴木昌一	渡部 一夫 小川 尚一 竹野 光雄 鈴木 貞正 田中 京子	太田 淳一 但野 謙介 門馬 和夫	渡部 寛一 荒木千恵子	岡崎 義典	大山弘一	奥村 健郎	水井 清光	志賀 稔宗	
収入内訳										
会派への交付額	1,260,000	900,000	540,000	360,000	180,000	180,000	180,000	180,000	180,000	3,960,000
預金利息	3	2	7	5	0	2	2	0	1	22
会派の収入合計(A)	1,260,003	900,002	540,007	360,005	180,000	180,002	180,002	180,000	180,001	3,960,022
支出内訳										
調査研究費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
研修費	1,056,936	577,536	0	0	92,526	69,660	115,507	115,507	154,496	2,182,168
広報費	161,000	532,104	624,782	429,652	0	110,224	141,744	0	23,000	2,022,506
広聴費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要請・陳情活動費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会議費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
資料作成費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
資料購入費	67,737	0	0	0	17,902	0	0	0	3,132	88,771
人件費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事務所費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会派の支出合計(B)	1,285,673	1,109,640	624,782	429,652	110,428	179,884	257,251	115,507	180,628	4,293,445
収支差引額(A-B)※1	△ 25,670	△ 209,638	△ 84,775	△ 69,647	69,572	118	△ 77,249	64,493	△ 627	△ 333,423
市への返還額	0	0	0	0	69,572	118	0	64,493	0	134,183

※1 交付額を超える支出(収支差引額)については、各会派の負担となります。

注： 無会派は議席順に記載しています。